

第4回 西成区教育行政連絡会（公開の部） 議事要旨

1 日 時

令和7年2月20日（木） 午前10時00分～午前10時50分

2 場 所

西成区役所 4階 4－8会議室

3 出席者

(1) 区役所

区長兼区シティ・マネージャー兼教育委員会事務局西成区担当教育次長、副区長兼教育委員会事務局西成区教育担当理事、保健福祉担当部長、窓口サービス課長、子育て支援担当課長兼教育委員会事務局総務部西成区教育担当課長

(2) 中学校

天下茶屋中学校長、今宮中学校長（新今宮小学校長兼務）、成南中学校長、鶴見橋中学校長、玉出中学校長、梅南中学校長

(3) 小学校

天下茶屋小学校長、岸里小学校長、千本小学校長、橘小学校長、まつば小学校、長橋小学校長、北津守小学校長、南津守小学校長、新今宮小学校長、（今宮中学校長兼務）

4 議事要旨

○ 令和7年度 西成区こども・教育関連事業の実施について

【説明要旨】

公開の部の資料4に基づき、令和7年度西成区こども・教育関連事業の実施について子育て支援担当課長より説明。

《西成区こども生活・まなびサポート事業》

・「不登校の実質ゼロ」を目指すため、寄り添い型の支援を行う支援員及びサポーターを各学校に配置する。

・取組内容について、「登校支援」は、電話・家庭訪問などにより児童生徒の登校を促す。「訪問支援」は、学校にほとんど通うことができず、家から出られない児童生徒等に対し、児童生徒の自宅を訪問し、学習支援、相談対応など、不登校による不利益が生じないような支援を行う。区登校支援・見守り支援員の配置校は区内16小中学校。

・「居場所支援」は、学校に通うことが出来るが、教室に入ることが難しい児童生徒が登校できる校内適応指導教室（スペシャルサポートルーム）において、学びの場に定着でき

るように見守りを行う。区居場所支援員の配置校は区内 1 中学校。

・「学習姿勢向上に向けた支援」は、小 1 プロブレムなどが原因で、学習姿勢が身についていない小学校低学年の児童に対し、学習に向かえるように支援する。区学習姿勢向上支援員の配置校は区内 10 小学校。

《外国につながる児童生徒の学習言語定着支援事業》

・学習言語が定着しておらず、学力に課題がある帰国・来日等の児童生徒に対して学習支援を行う事業。

・対象者は、小学校 4 年生～中学校 3 年生のうち、日本語指導教育センター校通級終了程度の生活言語を習得した児童生徒。令和 7 年度は日本語指導教育センター校を通級中であっても、日本語で簡単なコミュニケーションが取れるなど生活言語をある程度習得している児童生徒も受講可能とする。

・学校から受講者を推薦していただき、国語、算数、数学、理科、社会、英語の中から、児童生徒の状況に応じて教科を決定していく。

・定員は 35 名で、今年度から継続して受講する児童生徒と、次年度新たに入塾する児童生徒を見込んでいる。

・児童生徒 1～3 名に対して講師 1 名を配置し、個別の学習指導を行う。

《学力分析に基づく演習を活用した苦手分野克服事業》

・中学校の学力診断検査や高校入試の本番を想定した模擬テストを通じて、生徒の苦手分野を把握し、生徒にフィードバックすることで自身の課題を認識させるとともに、苦手分野の反復演習をすることで、個人の学力向上を図り、ひいては学校全体の学力の底上げを図る。中学生を対象とし、5 教科を実施。

・苦手分野の演習問題については、デジタルドリルを活用する場合は事業者の提案により 4 月から利用開始となる予定。

・スケジュールについて、中学 3 年生は 5～6 月に模擬テストを受験し、中学 1・2 年生は 11～12 月に模擬テストを受験する予定。

《発展型学習支援事業》

・成績中上位層を中心とした学習意欲のある児童生徒に対して、発展的な内容の学習支援を行う事業。

・小学校 5・6 年生については、基礎学力向上支援事業に参加している児童がつながりで受講する児童が多いと想定しており定員を 140 名と多くしている。なお、中学生については、40 名から 80 名に拡充予定。

・実施場所について、小学生は全 10 小学校に拡充、中学生も 2 中学校（成南中学校、梅南中学校）に拡充予定。

- ・時間数について、小学生は年間 100 時間、中学生は年間 300 時間であるが、反復演習が重要であるため、多くの宿題を課した場合は開催時間 300 時間を下回ることもある。

- ・スケジュールについて、令和 6 年度は周知が遅かったことから、令和 7 年度は 1 月と 3 月（令和 6 年度）に事前周知チラシを配布する予定。

《西成区基礎学力アップ事業（西成まなび塾）》

- ・区内の小学校 5・6 年生及び中学生に対し、小中学校校舎などの公共施設を活用した塾事業者による課外授業（補習）を実施している。

- ・実施場所などは変わらず。体験会については 1 学期での開催も可能とする。

《基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）》

- ・区内小学 3・4 年生に対し、夏休みや冬休み、平日の放課後を利用し、小学校で塾等の事業者による課外授業を実施している。

- ・前期授業の定員が 264 名、後期授業の定員が 270 となっている。

- ・年間 45 時間の授業時間で例年通りとなる。

《学習支援サービス（マイクロステップ・スタディ）》

- ・個人にあった問題を出題する機能を持つ e ラーニングサービス「マイクロステップ・スタディ」を導入し、効率的に児童一人ひとりの学力や語彙の定着率を踏まえながら語彙力の向上を図り、誰も取り残すことなく学力と意欲の向上を図る。

- ・対象者は、北津守小学校 3～6 年生。科目は、漢字の読み。

- ・各クラスが授業時間や家庭学習などの毎日 5 分～15 分の時間を利用し、児童の学習者用端末も用いて学習を行う。

- ・簡単な問題を読めるかどうか 4 段階で答える。潜在記憶理論に基づく学習法で、すぐには効果が出ないが長い目でみると学習効果が期待できる。

- ・教育委員会事務局との連携事業として、令和 6 年 11 月より実施。他区では研究校として生野未来学園が実施している。

《プレーパーク事業》

- ・魅力ある子育て環境を創出することで西成区に対する偏見やマイナスイメージを払拭し、子どもの生きる力を育む居場所であるプレーパークを実施している。

- ・令和 7 年度もプレイス型と体験型の 2 つの形態に分けて実施する予定。

- ・プレイス型は、もと松通保育所所庭を新たな巡回先の一つとして実施する予定。

- ・体験型は小学校の体育館・運動場等で実施するが、中学校では実施しない予定。

- ・区政 100 周年記念イベントとして、西成区民まつりと同時開催で令和 7 年 11 月 16 日（日）に実施する予定。

《西成区こどもの読書活動推進支援事業》

- ・読書活動を行うきっかけづくりとして、年間の読了冊数に応じて賞状を贈呈する。読書の質も大事であるという意見があったことから、引き続きふりかえりシートを実施していただき、読書の質も高めていく。
- ・4月～令和8年1月までが読書活動の取組期間であり、希望する学校には区長が訪問し、区長表彰を行う予定となっている。

《キャリア教育推進支援事業》

- ・西成区内在学の中学生を対象に、様々な分野で活躍するゲストティーチャーとの交流や講義を通して、ゲストティーチャーがどのような進路を選択し、どのような方法でその職業に就いたのかを学ぶなど、児童生徒が具体的な進路や将来の職業について考える機会を提供する。
- ・大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業の開催とバランスをとるため、大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業の開催がない年度にキャリア教育推進支援事業を実施する予定。そのため、令和7年度は調整の年となり、一部の学校では2年連続して開催されることがある。

《大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業》

- ・区内小中学校の児童生徒にプロの演奏を鑑賞してもらい、地域への愛着や誇りをはぐくみ、魅力ある地域へと変革させる人材育成につなげるとともに、将来の目標を見出していける人材育成をはかることを目的として実施している。2年間をかけて全小中学校で実施する。令和7年度は令和6年度に実施していない学校で行う予定。

《西成しごと博物館》

- ・西成区や近隣の子どもたちに、地元の企業の仕事内容を理解してもらうことで、働くことの大切さや面白さを感じてもらい、地元に誇りと愛着を持っていただくことを目的として区内の企業に出展していただき、仕事見学・体験を行う。
- ・事業対象者は、区内小学生（4～6年生）と区内中学生（1～3年生）。
- ・実施時期などは大阪府中小企業家同友会西成住之江支部と協議して決定するが、例年では10月下旬から11月上旬に区民センターで開催される予定。

《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

- ・帰国・来日等の児童生徒で、学校生活において日本の生活習慣などに支援が必要な児童生徒に対し寄り添い支援を行うサポーターを配置している。サポーターは有償ボランティアとしている。

・令和7年度は、サポーターに対して1時間あたり1,200円の報償金を支給する予定。

《小・中学校サポーター登録事業》

・帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポーターや、こども生活・まなびサポート事業の区低学年サポーターも含め、各学校で活動していただけるサポーターを区役所で募集・登録し、各学校へ紹介する。

・大阪市と連携協定を結んでいる(株)YOLO JAPANの外国人求人メディア(YOLO WORK)に帰国・来日等こどものコミュニケーションサポーターの募集をしており、引き続き掲載していく予定。

【各学校からの主な意見・質問】

《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

・1時間あたり1,200円の報償金とした場合、予算枠は変わらないため、各校の総配置時間は減る可能性があるのかお聞きしたい。

《西成区こども生活・まなびサポート事業》

・居場所支援員の活動状況についてご報告。校内適応指導教室には10名の生徒が登録されているが、実際に利用している生徒は多いときで6〜7名、少ないときは0名。一日平均で4〜6名が利用している。

適応指導教室には当初2名の教員を配置していたが、居場所支援員がいることで教員の配置が1名になり、フリーに動ける時間が増えた。その結果、他の生徒の家庭訪問に時間を充てることが可能になった。

予想外のメリットとして、居場所支援員が常駐することで生徒に安心感を与えている。生徒は教員には言いにくいことを支援員には話せることが分かり、大きな効果をもたらしている。

一方でデメリットとして、適応指導教室の利用ルールに課題がある。本来、チャイムが鳴ったら個別ブースに入るべきところを、支援員との信頼関係により雑談スペースで話することがある。そのため、教員からはルールがしっかり守られていない、臨機応変にし過ぎているとの指摘がある。ルールの遵守については今後の課題と感じている。

《学習支援サービス（マイクロステップ・スタディ）》

・マイクロステップ・スタディの実施状況についてご報告。試行実施してから3か月ほど経過している。学習用端末を活用し、昼休みなどの時間を利用して取り組んでおり、熟語が出題され、子どもたちはそれを読めるかどうかを4段階で答える。具体的には、「全くだめ」「だめ」「もう少し」「良い」といった具合で、問題を解かせるのではなく、記憶のレ

ベルを自己評価させるものである。この結果、子どもたちが読める熟語は出題頻度が下がり、逆に読めない熟語は出題頻度が上がる仕組みになっている。

これにより、自然と難しい熟語を学ぶ機会が増え、語彙力が高まる。毎日5～10分程度の短時間で取り組むことができ、先生が丸つけをする手間もない。

継続するための環境が整えば、毎日続けることができると思われる。そして、岡山大学側から定期的に成果の報告があり、子どもたちの語彙力が向上していることが目に見えてわかるようになっている。

【主な意見・質問に対する回答】

《帰国・来日等のこどものコミュニケーションサポート事業》

・お見込みの通り、各校の総配置時間は減る可能性がある。

《学習支援サービス（マイクロステップ・スタディ）》

・効果が出るまでには時間を要するが、今後については教育委員会と連携を図っていきたいと考えている。

第4回 西成区教育行政連絡会（非公開の部） 議事要旨

3 日 時

令和7年2月20日（木） 午前10時50分～午前11時30分

4 場 所

西成区役所 4階 4－8会議室

3 出席者

(1) 区役所

区長兼区シティ・マネージャー兼教育委員会事務局西成区担当教育次長、副区長兼教育委員会事務局西成区教育担当理事、保健福祉担当部長、窓口サービス課長、子育て支援担当課長兼教育委員会事務局総務部西成区教育担当課長

(2) 中学校

天下茶屋中学校長、今宮中学校長（新今宮小学校長兼務）、成南中学校長、鶴見橋中学校長、玉出中学校長、梅南中学校長

(3) 小学校

天下茶屋小学校長、岸里小学校長、千本小学校長、橘小学校長、まつば小学校、長橋小学校長、北津守小学校長、南津守小学校長、新今宮小学校長、（今宮中学校長兼務）

4 議事要旨

○ 令和6年度 西成区こども・教育関連事業の達成目標等について

【説明要旨】

令和6年度 西成区こども・教育関連事業の達成目標等について子育て支援担当課長より説明を行った。

【各学校からの主な意見・質問】

なし

○ 令和7年度入学 学校選択制の状況について

【説明要旨】

令和7年度入学学校選択制の状況について、窓口サービス課長より説明を行った。

【各学校からの主な意見・質問】

なし